

山科の御陵より退り散くる時に、額田王の

作る歌一首

一五五番

やすみしし わご大君の 恐きや 御陵仕ふる

山科の 鏡の山に 夜はも 夜のことごと 昼

はも 日のことごと 音のみを 泣きつつありて

や ももしきの 大宮人は 行き別れなむ